

■ 世紀の大発見「高松塚古墳」壁画発見 50周年 ■

第47回「関西大学飛鳥史学文学講座」を開講

【期 間】4月11日（日）～2022年3月6日（日） 各回13:00～15:00 <全12回>

【場 所】関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館

関西大学ではこのたび、「2021年度 飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾—」（全12回）を、4月11日（日）から2022年3月6日にかけて関西大学千里山キャンパスにて開講します。本講座は極彩色の壁画で有名な高松塚古墳の発見をきっかけとして1975年に開講し、今年で47回目を迎えます。

本件の ポイント

- ・極彩色の壁画で有名な高松塚古墳の発見を機に、1975年に開講した歴史ある講座
- ・2021年度で開講47年目、通算500回超え、延べ受講者数約11万人と根強い人気を誇る
- ・明日香村とは古墳・遺跡発掘調査や古墳関連史跡の世界文化遺産登録に向けた活動等で連携

開講当初から継続して受講するリピーターも多く、高年齢者層を中心に根強い人気を誇る本講座（通算回数500回超）。熱心な若い世代の方や近畿圏外からの受講者もおり、これまで延べ約11万人が受講しました。例年会場としている明日香村中央公民館が耐震化工事のため、今回初めて会場を本学千里山キャンパスに変更して開講します。それに伴い、本学博物館の収蔵品や高松塚古墳壁画再現展示室などを見学できるキャンパスミニツアーも実施予定です。

講師には、本学の文学・歴史・文化遺産学の専門家である教授陣に加え、学外から作家の玉岡かおる氏や宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査官の徳田誠志氏、世界文化遺産登録を目指す明日香村村長の森川裕一氏らを招きます。4月11日は、「文武天皇陵の可能性を高める歴史的発見」と注目された明日香村の中尾山古墳について、本学文学部の米田文孝教授が講演します。

さらに今年度は、「高松塚古墳」壁画発見50周年の佳節を祝し、2022年3月27日に特別イベント「伎楽と天王寺舞楽～伎楽が結ぶ飛鳥と四天王寺」（仮称、詳細未定）を開催します。10月10日には同イベントの導入講座として、天王寺楽所雅亮会 副理事長の小野真龍氏による特別講演も予定しています。

<2021年度 第47回 飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾— 概要>

【開講期間】2021年4月11日（日）～2022年3月6日（日） 13:00～15:00 <全12回>

【場 所】関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館（大阪府吹田市山手町3-3-35）

【参 加 費】同講座のみを受講する場合：1,000円（詳細は別紙ご参照）

【定 員】200名 【受講対象者】飛鳥時代をはじめとする歴史や文化に興味関心をお持ちの全ての方

【受 講 料】年間受講料5,000円、1講座のみ受講は1,000円

※明日香村在住者ならびに、本学学生、本講座に興味のある中高生は無料

【受講申込にかかる問合せ先】 関西大学教育後援会 飛鳥史学文学講座係 TEL:06-6368-0055

【主 催】関西大学飛鳥文学研究所、明日香村教育委員会

【過去3年間の実績】2020年度：1,481名、2019年度：1,449名、2018年度：1,508名（延べ受講者数）

以 上

取材に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：寺崎、木田、久保

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

■ <2021年度 飛鳥史学文学講座> スケジュール・講師・テーマほか

【目的・趣旨】

1972年、故網干善教教授率いる関西大学の考古学陣が、日本初となる高松塚古墳の壁画を発見した。本講座はこの未曾有の大発見を契機に、関西大学の研究成果を広く社会に還元することを目的として企画されたもので、本学飛鳥文化研究所と奈良県明日香村の共催により実施している。これまで延べ約11万人が本講座を受講し、2021年度で開講47年目を迎える。

本学では、世紀の大発見から50周年の節目を目前に、記念事業の推進をはじめ、県や村が目指す古墳関連史跡の世界文化遺産登録を目指した取り組みなど一層の連携強化に取り組んでいる。2020年の明日香村・中尾山古墳の発掘調査では、古墳の大きさを正確に把握するとともに、精巧な加工技術と朱塗りが施された石槨内部の構造を明らかにした。

【スケジュール】

| 回 | 日 程 | 講 師・テーマ |
|----|----------------|--|
| 1 | 2021年 4月11日 | 関西大学文学部教授 米田 文孝 「中尾山古墳が語る時代の変革—古墳の終焉と火葬の始まり—」 |
| 2 | 5月9日 | 関西大学文学部教授 井上 主税 「5・6世紀の大和地域の渡来人について」 |
| 3 | 6月13日 | 作家 玉岡 かおる 「古代美人の活躍時代—壁画に残る麗人たちからつなぐもの—」 |
| 4 | 7月11日 | 関西大学名誉教授・兵庫県立歴史博物館長 藪田 貫 「女帝と女王—推古天皇からヴィクトリア女王まで—」 |
| 5 | 8月8日 | 関西大学文学部教授・なにわ大阪研究センター長 乾 善彦 「歌物語としての『古事記』下巻—『古事記』雄略天皇条をよむ—」 |
| 6 | 9月12日 | 関西大学副学長・文学部教授 藤田 高夫 「東アジア木簡学事始—古代漢字文化の諸相(一)—」 |
| 特別 | 10月10日 | 天王寺楽所雅亮会 副理事長 小野 真龍 「伎楽と天王寺舞楽—伎楽が結ぶ飛鳥と四天王寺」 |
| 7 | 10月10日 | 関西大学文学部教授 長谷 洋一 「近世奈良を旅する人ひと—絵図・地図からみた大和名所めぐり—」 |
| 8 | 11月7日 | 関西大学文学部教授・博物館長 西本 昌弘 「高松塚古墳の被葬者を考える」 |
| 9 | 12月19日 | 宮内庁書陵部陵墓課 陵墓調査官 徳田 誠志 「百舌鳥・古市古墳群」の調査と研究—宮内庁書陵部における32年間の足跡—」 |
| 10 | 2022年 1月16日 | 関西大学文学部教授 村田 右富実 「歌から見る天武朝」 |
| 11 | 2月13日 | 明日香村村長 森川 裕一 「古代飛鳥の国づくり第6考—大陸との交流／日本国創成の引き金—」 |
| 12 | 3月6日 | 明日香村教育委員会調整員 関西大学非常勤講師 西光 慎治 「蘇我氏の「都」構想と日本国創成の軌跡—蘇我氏関連遺跡群から中尾山古墳へ—」 |

以 上